

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	経済学部
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.3 教育方法
小項目	6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。
要素	教育目標の達成に向けた授業形態（講義・演習・実験等）の採用 履修科目登録の上限設定、学習指導の充実 学生の主体的参加を促す授業方法 研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導（院） 実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導（専院）
小項目	6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。
要素	シラバスの作成と内容の充実 授業内容・方法とシラバスとの整合性
小項目	6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
要素	厳格な成績評価（評価方法・評価基準の明示） 単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性 既修得単位認定の適切性
小項目	6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
要素	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 少人数教育を推進するために、研究演習の1ゼミ当たりの人数を現行水準よりも引き下げる。また、大人数講義を複数クラスに分け、1クラスの履修者数を教室定員以内に抑える。	→研究演習の定員数。大人数講義科目のクラス数と履修者数。	B
2. 学生の研究発表（例. エコノフェスタ）を定期的で開催し、その成果を社会に公表する。	→学生主体の研究発表会の開催数とその成果報告数。	A
3. 大学院生や研究員をTA（Teaching Assistant：ティーチングアシスタント）、そして学部3・4年生をLA（Learning Assistant：ラーニングアシスタント）とするチューター制度やメンター制度を確立させ、5年後にはTAを10名、LAを20名とした組織にする。	→チューターやメンターを担当する大学院生・研究員および学部上級生の数。および、1人あたりのチューターやメンターが担当する学生数。	D
4. 初年次教育部会を設置し、FD（Faculty Development：ファカルティデベロップメント）の一環として、初年次導入教育におけるカリキュラム、授業運営、教育指導のあり方などを点検・評価し、問題点を改善する。そのことで、KG経済学士力の水準を引き上げる。	→改善による教育への効果の初年次教育部会での評価・点検とその公表。および、1年生対象の基礎学力検査の実施とその結果公表。	C
5. FD委員会主催の授業改善のための研修会を継続し、授業評価アンケート、教育成果の測定方法、および授業改善方法の適切性などについて点検・評価を行い、問題点を改善する。そのことで、KG経済学士力の水準を引き上げる。	→学部FD活動による教育改善への効果の評価・点検とその公表。および、学部上級生（3・4年）の経済学専門能力検査の実施とその結果公表。	C

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

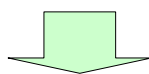
《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目6.3.1	(方針) 少人数教育、初年次教育改革などによる教育成果の伸長。 (現状説明) 1. 少人数教育：2010年度の研究演習の定員数を20名とし、例年より5名から10名ほどの減少となる。 2. 学生の主体的参加の促進：エコノフェスタの開催。国際や環境、関西経済など7つの部門で学生による研究発表があり、海外から参加したシンガポール国立大学や延世大学(韓国)のほか、慶應義塾大学、上智大学の学生も参加し、計33チームが発表をした。成果は『毎日新聞』(2010年1月4日特集号)に掲載。 3. 研究員・大学院生によるT.Aは2009年度30名、うち授業補佐、自習支援には17名が携わり、学部生支援を行った。 4. 初年次教育の改善：大人数講義の複数クラス分けによる1クラスの履修者数の削減を含め、初年次導入教育と専門教育の改善を目指し、初年次教育部会(基礎教育部会と改称)と専門教育部会の立ち上げを目指す。
☆ 小項目6.3.2	(現状説明) シラバスに基づいた授業：科目の目的、各授業ごとの概要、評価方法、授業方法などを記したシラバスを学生に提示。学生によるアンケートに調査によると、シラバスに基づいた授業が概ね行われている。
☆ 小項目6.3.3	(現状説明) 適切な単位認定と成績評価：シラバスや授業などを通じて成績の評価方法・基準は学生に十分認知されており、単位制度の趣旨に基づく単位認定や既修得単位認定に関しても、授業科目履修心得に掲載。
☆ 小項目6.3.4	(現状説明) 4および5. FD(ファカルティデベロップメント)：FD活動の一環として、専門基礎科目に関して毎学期ごとに報告会(研修会)が開かれ、講義内容、成績、授業形態などの説明を行い、問題点や改善方法などの報告が行われている。その他のFD活動も含めて、その取り組みに関してはFD活動レポートとして外部に公表されている。 1年生対象の基礎学力検査・3,4年生の経済専門能力検査の実施はしていないが検討中である。
☆ その他	

◎効果が上がっている事項

【点検・評価(1)】効果が上がっている事項

小項目6.3.1	
小項目6.3.2	
☆ 小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	



【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目6.3.1	
小項目6.3.2	
☆ 小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項	
小項目6.3.1	T Aとチューター制度の見直し。
小項目6.3.2	
☆ 小項目6.3.3	
小項目6.3.4	1年生対象の基礎学力検査の実施。
その他	

↓

【次年度に向けた方策(2)】改善方策	
小項目6.3.1	T A (大学院生・研究員) が学部学生へ適切に教育指導できるような工夫を検討 (例. T A採用要件として、教授法・講義方法のワークショップへの参加)。
小項目6.3.2	
☆ 小項目6.3.3	
小項目6.3.4	2010年度秋学期に1年生を対象とした基礎学力 (数学) 調査の実施を検討。
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】	
☆ その他 (自由記述)	

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】

○6.3に限らず、全体として「現状説明」が具体的でわかりやすく、また改善すべき事項とそれへの対応策を率直に記述していることは評価できます。

【学内委員】

○具体的な目標とその取り組みが評価できます。また、改善すべき点も把握できているので、具体的な改善の方策に取組まれることでより充実した教育活動が行われ、KG経済学士力が高いレベルで保証されることが期待されます。

○小項目6.3.1に関して効果が上がっている部分の記述を現状分析から拾い出して記述するべきでしょう。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

☆ なし

V. 本項目の評価指標

＜全学的な指標＞

6.3.0.S1	大学院生の論文件数(査読制の雑誌と学内紀要等に分ける)
6.3.0.S2	履修者数規模別の授業科目数(少人数・中人数・大人数)
6.3.0.S3	少人数授業の授業形態の調査
6.3.0.S4	規模別講義室・演習室使用状況
6.3.0.S5	マルチメディア教室の稼働率
6.3.0.S6	遠隔授業を活用した授業の比率
6.3.0.S7	学生の授業評価におけるシラバスの有効性に関する質問への肯定的な回答の比率
6.3.0.S8	定期試験の問題の適切性を検討する会議・委員会の有無と開催頻度
6.3.0.S9	一括申請による教職免許状取得件数および取得者実数
6.3.0.S10	日本学術振興会特別研究員応募者の有資格者に占める割合
6.3.0.S11	各年次セメスターごとの履修単位数制限の状況
6.3.0.S12	成績評価の分布が適正な科目(平均点が70-75点)の比率
6.3.0.S13	GPA値(全学、学部別、男女別など)
6.3.0.S14	履修者別開講科目数・1科目当たりの履修者数
6.3.0.S15	学生の授業評価におけるシラバスの有効性に関する質問への肯定的な回答比率(大学、学部別、授業形態別)
6.3.0.S16	オープン授業(授業公開)の全授業における割合
6.3.0.S17	学生の授業評価の実施率(全学、学部別)
6.3.0.S18	学生の授業評価における当該授業への満足度に関する質問への肯定的な回答比率(大学、学部別、授業形態別)
6.3.0.S19	在学生のうち、授業をまじめに評価したと思う学生の比率
6.3.0.S20	在学生のうち、学生による授業評価アンケートの実施が授業を変えるのに役立っていると思う学生の比率
6.3.0.S21	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(キリスト教関連科目)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率
6.3.0.S22	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(語学)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率
6.3.0.S23	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(一般教養的な授業)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率
6.3.0.S24	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(専門科目)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率
6.3.0.S25	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(ゼミ)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率

＜個別的な指標＞
